

朝夷巡鳴記 第一編 卷四

113
939
334

30

25

20

15

10

5

19413
939
298

朝夷巡嶋記全傳卷之四

花房仙次郎正司著

東都

曲亭主人編輯

同上

初輯第七

林阪乃牛奔車
楓の虛北崑崙佛

江三二廣光ハ幼君白鷹丸を貰す。妻浅良井と扶掖。口、管ふまづり。
日づく足利。学校又到着。彼の学頭。均長老。主家の難を
竊々告て。孺君のうへ。其處へ。均長老うち。驚き。白鷹丸不外姪
みどり。懐れどもかると。此の資と。あらざらん。いやと心ひなく。と異
ぎ。絶もなくうけ引る。かひく。ぞ。舍藏ぬ。あくと。よも。廣光ホリ主君のうへ。兄が
ゐ。あらぬ。かひく。尻も。ちぢむ。そろこの空を。瞻望。じよ。せ日あまり
き。など。ひがせう。のうす。あがい。のうす。あがい。
色褪ふ。巷殘御覗。喋。範頼。終善寺。自殺。あり。廣通重

能ホとべく七人元より為体。又濱の宿の旁へ付ひの軍兵とさへ向れ。橋太
左衛門治部承ホ。みる悉行花とて。憐太の方も猛火より包を灰燼となす。而も
みど今見るよ語りつだいひりと傍へそ罵り騒げば。筠長老ハ皆毎日か
づき限うまけきど外あらざりぬありからて竊ニ廣光浅良井。彼風声と
告き。せよまき白鷹丸と。やく隠く人を遣せば。廣光ホも豫くより。
ちりびざるやあぐねども。又今ナシのゆか墨く只く。やく哀れむ。ゆゆ
うたのう。儒君のちんか形うた世代捨うひつ。廢子ひと。獨木橋淵又
臨る心地せり。かう患ひよ枯れ。半の。ゆかくみなはぬ。ど。幸ふて異
なることなく鄙語ふり。七十五日。世の風声もうとなく。果もゆきえど。わすれ
け。その明の春筠長老八年の始。内拜賀とて。篠倉へ。正月下旬。又
還あと。かく廣光ホを竊。又拓を放ひ。白鷹丸。ひやせろ外口とたる。やく
此度定く。方足利流。さきの。緋の。趣委細。ゆめ。り。こゑ。よ。よ。まく。篠倉殿。と
おひくへさせ。ひけん。有。日景盛。安達。盛長の嫡男。の。ま。され。えち。ち。り。く。が。ま
功みえ。所領。ゆかく。範頼。が。妻と。子の。命。え。と。考。く。ど。も。予。へ。憐太。の。前。と
赦。ゆ。白鷹丸。を。ゆ。さ。り。た。考。る。小。件。の。一。婦。へ。墓。ゆ。く。枉。死。と。免。行。の
詮。うなよ。似。う。り。情。ゆ。く。範頼。が。逆謀。か。定。う。ま。が。ま。る。戒。被。擧。た。ま。え。兵。を。乃
ゆ。よ。煙。れ。欲。い。と。も。不。便。の。エ。ふ。う。い。す。や。白。鷹。丸。ス。く。ど。と。も。成。長。の。後。逆
意。う。く。が。追。捕。の。沙汰。よ。み。べ。く。ど。退。出。う。が。こ。の。旨。と。又。盛。長。み。は。よ。し。と。竊。ゆ
示。く。ち。ひ。く。と。ぞ。こ。れ。別。入。み。使。る。よ。あ。く。ど。廻。被。地。ふ。退。出。の。お。兄。日。景。盛。が。密。語。ぬ。
との。比。の。入。こ。う。ふ。一。き。ま。が。白。鷹。え。そ。と。く。由。出。へ。る。う。よ。だ。欲。く。と。の。限。り。う。け。き。じ。ロ。外。の。手。や。

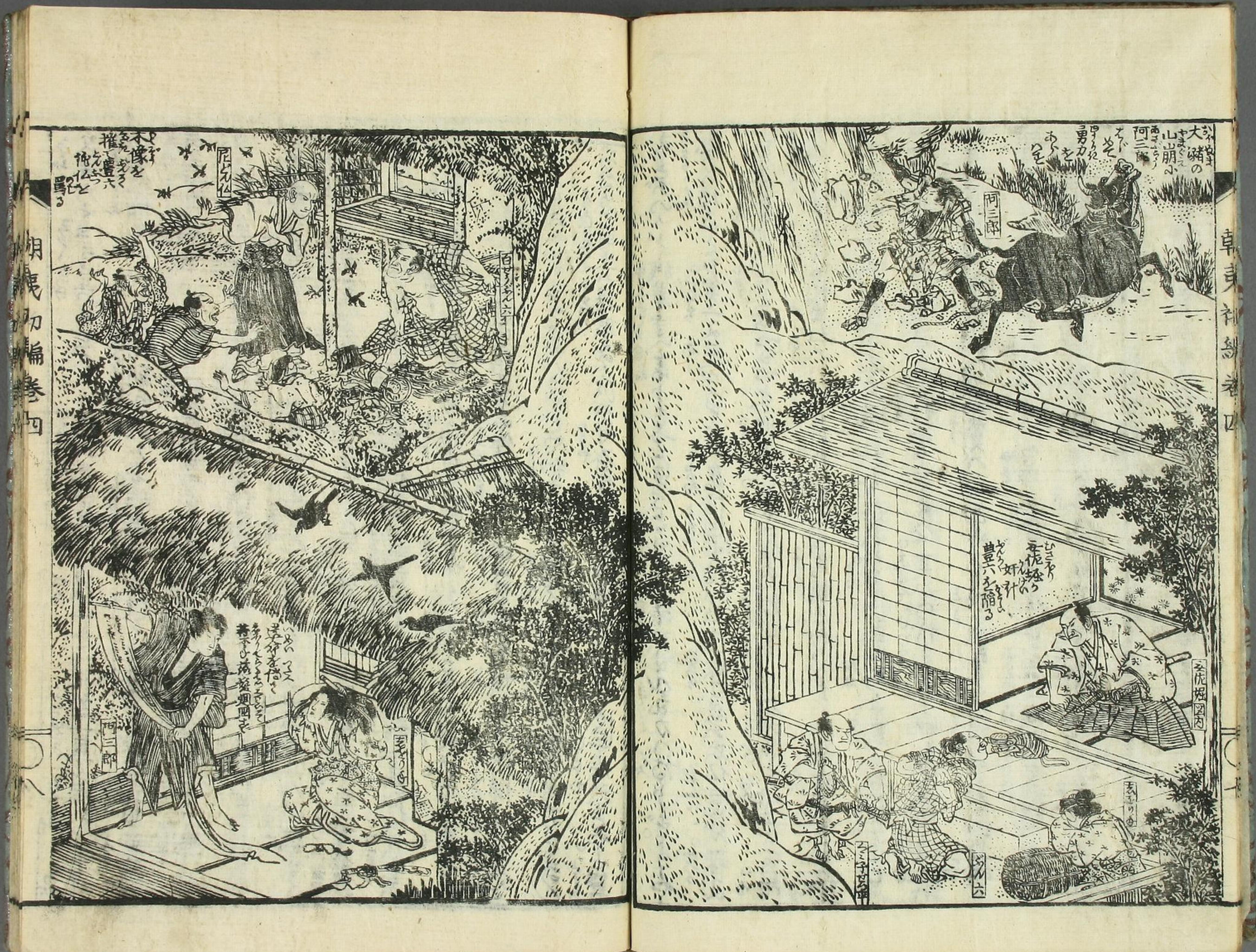
あつて白鳩丸をこび郷より告げた。今さうせば去年比叡山野太郎がこの足利小流浪より討合せ又蒲殿ハ寃枉より多く滅亡志もへども死後か及び。逸者のるよ。あらまくゆと志されし和敵の舍兄弟智謀を知り。されば件の遺書。廣通が草せしよ。あるみありと定ふい。と量も又景盛が言まの氣よあらまく誠よ義人廣通へ身のうた後まで君を佐。その智。その忠。傳希。惜かる主従八人名族のミ伊豆の山寺の石み送せ。エよといひて涙をうちかわべ。廣光夫婦ハ欵しきと又哀しき堪え。脆弱の袖のあのみ。ぐけくねえぞうべ。かくとも件の主従へ世業あざ。西三年。藤倉の沙汰をゆく。疑ひたるもあきらめ。高長老も廣光夫婦も。やく心をちかく。此彼より。終合。藤倉を走る日。小鷹君へとそ廣通がやくせしる金子をりく。八町四反の田地を購一構の家作。も。ふもあく。せん貧しくもあく。春秋秋送る。宿は白鳩丸。学園ふく。白鳩丸を移す。あくせ廣光。小が外。又西三人の奴婢。承養。耕作の用。中究富弓馬陣法偏。とちく。武藝を励み。やなえ文武。やうたが。才長て。覆也。とく。明せざる所。ふく。のちく。よ至て。筠長老も廣光も。及さる。遙め遠。まろ。相。又年浪のよせ。ふく。と隠成。よし。白鳩丸ハ十六の春。生を。や。迎へ。廣光ハ豫て。筠長老。又相。禪。元服の義を。や。じ。よ。名も。更。く。吉見冠者。長邦と稱。ひよ。あく。よ。そ。郷の良賤。この少年。又蒲殿の。あん。す。み。と。よ。あく。よ。藤倉の。沙汰。や。ふく。入る。よ。ふ。怪。ま。よ。それが。長邦主従。が。き。ゆ。され。よ。憚りの。闇の。戸。開。心地。く。心従。が。長老の。高恩。よ。よ。り。と。く。父の。ごく。主の。ごく。り。く。ま。でも。仕。と。よ。ひ。あ。り。だ。均長老。この。秋。病。を。病。づ。ひ。よ。ひと。よ。

危く死んでしまひ。義邦と廣光は枕方足方のつた添て。看病等用たのとさむ。毛定業うらぎが醫療も聲が生じ病と五十餘日みる。竟よむる。あるましき事。それへどもかたあさう。もやう。そつた。案下某生再說阿三郎へ。母親の病著狀。とくらぬ。滿祿寺ある。師の坊を辭へ去り。大體清江に立入り。茶餌何人見と多く。袋用ひ。夜こそせき。ひゆ。福ざき等。廻る。ね。孝養。神も憐み。ひえん。醫師へ匙。おさめ。死病をやうや回陽。次の年の弥生の比。大へども。をとて。うのう。二とせやう。葉。價小家財へきて。沽却。些の田地を貰ふ。邊へ。こがわ。ひづ。とくらぬ。と。上。嘲がまへ。うち數く。又。豊六が貧の病へえよ。勧。薬もなし。と。や。暮。小碎く。と。親のあらう。休ん。と。もへ。朝ハ未明。田を鋤。畠とかへせ。も。三。二。人。も。領。りて。僕。め。残る。頃。み。と。これ。ね。一人。稼。み。む。ほ。う。も。あ。う。さ。五。六。為。と。入。る。ま。と。馬。を。追。ひ。牛。を。牽。株。と。刈。薪。我。携。り。雨。ふ。濡。日。ふ。く。ろ。む。艱苦。を。比。ん。達の髪。を。草。綿。と。圓影。さへ。又。寢。き。う。と。亘。死。る。二親。ハ。此。ま。と。う。ね。一。借。旅。と。債。も。う。と。う。苦。と。う。と。う。世。と。う。時。と。う。木。曾。殿。の。庵。洞。三。浦。當。の。す。う。う。子。給。と。う。ひ。恰。と。う。ひ。貴。公。子。が。天。離。る。鄙。の。田。舎。の。様。と。親。み。も。あ。う。ぬ。口。も。死。只。親。と。う。あ。う。死。考。行。物。体。な。や。と。う。び。え。よ。の。ま。り。流。き。渓。川。委。ぬ。水。と。流。浪。る。人。の。往。方。の。あ。う。と。明。地。み。へ。云。と。懲。り。う。が。ほ。ふ。窮。鬼。と。讐。敵。う。と。又。死。人。年。不。よ。た。る。もの。あ。う。り。や。せ。ん。と。輕。紙。追。ふ。果。敢。な。だ。つ。紙。ひ。あ。と。ふ。う。死。年。月。を。送。ま。す。か。く。も。ア。三。郎。ハ。十七。歳。よ。う。い。う。筋。骨。大。う。と。定。く。身。長。ハ。五。尺。大。す。骨。逞。く。膏。づ。ね。く。掌。み。成。被。ハ。盆。を。掩。ひ。足。を。あ。ぐ。と。溝。を。踰。べ。その。形。容。力。士。め。た。と。肩。と。比。う。の。を。な。く。ど。糸。あ。み。と。温。じ。ぎ。頗。ゆ。く。怒。り。死。う。う。ま。ど。人。を。織。ら。む。平。生。め。と。き。ま。ま。と。く。あ。ゆ。く。あ。れ。を。絶。く。

あらまちあくへり。のあらまち舞どるとぞひ至ざる隈ゆ。舞舌みよ。水ふ柳
す。あらまちども博士態。くぬいと武城ねねが。こゑ武城おもひと稀あり。みみづ
くらむ武城れへ。ちくらあつまう舞城さゆ。有一日薪を積よきけ。車を牛よ
牽へ。鄰村へとてゆ。途よ一條の新阪あり。ちくら比の山崩よ。この路を
開拓す。山崩険と喚做へ。左右又木立隙みよ。林阪とも二三秋の阿三
郎の牛を逐ひ。車を坐て件の阪登り果んと五角稻よ積よる薪二三
束。毛障みと浪着せ。追ひとぞんと。牛城牽駆。身ハロハ憊だたつ。走
ふ下りて。彼薪城拾ひ取ふんと。もる程よ。何とぞもん牛城解く。車へ阪を真
降す。轔び落ゆ。阪ハ険し。車へ車へ。又登り。あは内三郎も。亘坂避る。小
眼き。ありて。右手城さ。伸。車を楚と突。也。ちくら車乗して曳くと。推
て。輪く。推のが。牛城城轔め。大く轔。牛城車城牽。けり。このと轔
ト。うち。う。牛城力。牛ゆ。やう。轔す。弦暁り。と。と。と。と。と。と。と。
ながう。や。一。ひ。う。か。う。け。り。され。ハ。浅江の豊六も。な。ぐ。親教う。妻乃
言。も。死。え。く。何。せ。ん。も。す。親。子。三。人。それ。と。う。妻。の。葉。み。か。三。年。あ。ま。う。と。の。病
著。ゆ。く。在。が。う。う。た。の。う。庄。司。豊。の。一。二。と。う。莊。客。の。女。房。ハ。葉。み。が。後。方
さ。う。た。彼。女。房。か。う。と。の。う。一。三。へ。か。く。跡。く。も。あ。く。と。使。氣。あ。く。の
な。う。と。葉。み。が。葉。み。も。葉。み。も。渠。が。面。を。つ。る。と。ふ。か。び。そ。の。う。城。じ。ー。ら。よ。
且。ふ。の。債。る。と。ほ。豊。六。の。葉。み。も。渠。が。面。を。つ。る。と。ふ。か。び。そ。の。う。城。じ。ー。ら。よ。
か。く。と。う。城。じ。ー。ら。よ。一。三。へ。や。あ。く。と。あ。の。伴。う。う。の。城。み。と。金。残。み。の。借。代。乃

王る。あまりあると人へ貸す。その困窮を救はれ所賄財のあらざり。
守護の脣といひまつ。おもとまく吾脩富る小あらねど和主の比きがゆうりやせん。
そのかえは妻もなく。又遺はづた子もあらず。六十の阪へ足踏みて伊勢守
移く物惜れ。あるとたゞ返す。ひよだ城ゆんとく。安否城向ふへ要
い。あはとよかくあひて回答をす。これうちみよりと豊六へ。あはる一乃みず毎ふ
一三が誠心を。ひよだ城ゆんとく。當村よへとうまび竹馬の友じまうなむよ
あはれと恩苦を教ふ人をよし。ひよだ高利をうけく債うと寄とまつに
せまつことき。一郷の君子あり。汝ホも彼人の恩義がるをす。といひ
庄司殿の一三のまつと。一郷の君子あり。汝ホも彼人の恩義がるをす。といひ
つ流さでぐくと親の御城渡さる。阿三郎の身ふくさ。ひよだ恩惠小報せん。
とおはざる日もたゞアゲ。つぶ旅力あると城荒へ後よりありゆ。恩人一二
つ流さでぐくと親の御城渡さる。阿三郎の身ふくさ。ひよだ恩惠小報せん。
ぬ一田地ハ水口ス大石あア。用才のほコナ。あはとども彼石とよも捐モと
轉う。従ハ久くとく残蟲と。竊ニ件の石を除ケ。些の資材ナムシ。ベ。と
計ハ不ぞひ決めく。親ゆの告げ夜をあらゆ。彼樋口へ赴く。あはと百人あまり
して運動すがまし。半ハ水土小埋き。石を抜き引起し。旧のエヌ
運へ。十町あまう北の谷底へ彦くとく。そぶほとくある。狂客们
件の響小聲を四元あくを。運へ。と起坐す。この分野は早暮と果たハ口ハ神の事
ざる。ア定くうぶなど。全身黒漆め。玉眼生み。如。その佛寶の背のくら年。ア
女僧あけり。そが菴号ハ千日葦。本尊ハ釋迦牟尼如來龍華說法の木像
体。ハ定くうぶなど。全體黒漆め。玉眼生み。如。その佛寶の背のくら年。ア
ある楓樹あま。幹のあとく十圍。又ある。枝下九尺。石。根。大。叶。根。大。葉。根。大。葉。
虚少う。空。ナリ。後ゆへ壁を穿く。この樹へ廟をさす掛く。件の虛と廟子と

お彼木仏を安置せしべ里人ホハその數奇ふ愛く複の虛の峴嶮仏と喰做
隨の名もくうしゆかしてこの比峴嶮仏が正く經戒続ゆよとく老弱群集途
あへど現寄候ひへ世間のきごとの人の避る所。庄司殿の一三ヶ樋の口たす石
のゆ。二の続經佛のる候のミ味くそいひ罵る葉モトミ衣はへ曾て一夕ひ子又
ひゆ。千日菴の山ムが俄頃又をやうせあふ。ひととあるくわあひのくら。から類も
さむるゆま。吾脩ハ年未だ着る。浅草寺の親世音を貰ふ。懲りせられ
病氣ふうちでせ一日トキ。大慈大悲。願乞。定業のトバ惜ば。命失
程ど。故ニ朝々の煙りの細き。所天や子がり。勤勞を。めうり。これをす。身
苦も。胸苦。病瘡。やまく。ほじ。身もかて。身もさざれ。こび
きよせばちに。大往生を遂させ。又助るべ。のろと。一日もたやすく
おこなせ。所夫や子の苦縛休ら。と念むる。と年死。稍本復。穢をつ。
かどがい。腰草す。へ素。うと。せ。あ。と。族。せん。乳。か。へ。も。う。ど。よ。や
き。力。け。る。と。も。第。一。足。が。あ。く。と。無。因。む。ほ。じ。疎。よ。せ。ぬ。仏。恩。成。疎。又
三郎。ゆ。あ。ぎ。と。ふ。富。む。人。ハ。苟。且。の。ウ。の。詰。み。馬。轍。と。あ。の。ぶ。や。う。た。馬。旅。成。ま。う。む。
さざく功德も。あ。い。あ。べ。さ。う。誠。か。う。ひ。あ。ま。く。き。ぬ。あ。よ。あ。く。ぬ。と。と。な。で。ふ
ふ。う。ひ。へ。を。あ。り。と。の。あ。ま。ぐ。ひ。ふ。う。ひ。某。母。の。代。義。成。う。け。ま。ア。い。い。彼。此。あ
賃。旅。の。受。と。う。ひ。と。ひ。が。旅。費。へ。そ。ま。ふ。く。の。足。互。り。水。引。る。ト。ガ。三。日。陸。と
い。ゆ。六。七。日。ゆ。へ。う。り。あ。ん。と。い。と。易。一。糞。み。あ。し。て。翌。未。明。小。首。途。成。つ。ま。う
ら。と。辱。ト。と。も。ち。方。く。笑。ま。か。い。考。集。い。く。り。と。が。吾。脩。が。み。づ。く。ら。あ。つ。ふ。良。也
さ。ゆ。ま。と。水。引。へ。ね。一。く。と。ぞ。ト。や。日。う。ざ。六。三。四。日。福。と。房。と。も。陸。一。そ。ト。け。き。初
族。居。よ。み。ち。り。そ。グ。そ。あ。ま。も。旅。成。ま。う。ひ。そ。と。渝。と。義。成。ま。う。ひ。そ。と。



父豊六云と告ぐ。あがめの眼取てひねりぬかとさへ笠一蓋を同ねて起
行の准候とべ。その詰朝音ある。残草寺を投く。首途せり。さる程小銈佛が
あれ。うきよえ。
模倣唐乃嶺。山まほく。經旅続あり。まづ。まづ。まづ。まづ。まづ。
田とむりかど畔とめづら。提籠飛され先ゆと千日菴へ詣る。まづ。まづ。
な高。豊六が麥畠とつづり。踏荒せば罵聲れどもきくのは頃へ四月乃中浣み。
あたよま。あたよま。あたよま。
秋の鄰を。青素の登りを十分うづく。千日菴へ赴き。一穂も惜ことふる。今茲に糧を罄れ
腹がよそじも。恵みのびく。千日菴へ赴き。一穂も惜ことふる。今茲に糧を罄れ
えら歎く。我訖佛尼へ。すあく。班ある。齒を見し。呵とうち笑ひ。あは衆を
入りである。この世ノ假の宿する。お庵。一眼。二眼。三眼。麥を惜しき。佛^{（諸）}と
うぶを自ら禁め。よし。和主がめを悪く。地獄の窓。冷をくう。
あく。必前生へ。提婆うだへ守屋うだ。さす佛敵の度。げし疾迦まや。と。唐
めく。再び。とりゆあがめ。豊六へ。と。腰のうらのうのうのう。脚もよし
あらば。一言の諱。と。是より。あがめ。まづ。まづ。まづ。
窓ふと。兩三日。小及び。既。まづ。と。う。今ハ。か。と。名ひ。決。その次乃
ひ。と。まづ。と。まづ。と。まづ。と。まづ。
目外山。ある。柴火。樵る。と。宿。所。火。牛。亭。牛。ぼろ。山。を。下。ア。て。件。付。菴。又
かけ。彼此の老弱男女。刈陥た。まで。充満。生る。内。退。ぐ。入。居。り。の。進。ミ
ク。移。彼死。准此。推。き。み。ゆ。投。房。賽。流。ハ。雪。吹。よ。ま。阿。霞。の。ど。く。齊。一
念。ま。仙。名。ハ。菜。種。不。聚。く。財。又。供。ア。リ。豊。六。ハ。外。面。ア。リ。左。立。右。逃。リ。く。裡。乃
す。を。寢。六。菴。主。の。尼。純。仏。ハ。佛。ハ。對。ひ。高。胡。床。そ。香。と。燐。經。と。縛。つ。投。く。房。賽。
賛。の。意。ち。あ。方。小。袋。配。玉。大。目。口。暇。あ。る。重。け。時。分。へ。よ。と。豊。六。ハ。勢。ひ。猛。く。引。
提。房。斧。の。柄。を。力。く。立。と。ま。人。を。撞。り。た。か。た。口。け。く。虚。の。ぼ。う。小。進。ミ。出。づ。
長柄の斧。残。立。す。て。四。下。を。信。と。疾。視。し。て。它。が。ま。え。まづ。老。弱。男。女。劇。騒。だ。く。

あまくと。といひて。不豊六。声をあり立て。入る。五吾僧。あすむ。欲観正法。やへ不思
議は。般秋迦。阿彌陀。木を。刻。佛が。流經。あむ。と。あぐん。や。ひまち
え。佛ゆ。あよ。あつう。あ。え。麥細。脂。糞。糧。失。ひ。と。禁。め。て。う。見。と。頻
まふ。菴主。か歎く。と。り。だ。そ。の。ゆ。へ。聴。ま。だ。く。仏。敵。外道。と。罵。され。損。く。恥。強。か
せ。浅江の。豊六。ある。よ。名。告。ば。も。あ。る。人。あ。る。い。木。佛。が。経。殘。じ。奥。の。院。と
推。開。た。て。至。明。の。醉。残。醒。ん。ぎ。と。食。く。る。斧。残。う。き。は。せ。が。純。ム。慌。忙。な。く。こ。れ。復。て。大
悪。人物。体。き。と。殊。數。を。り。拂。退。け。ん。と。考。け。り。い。物。く。や。と。豊。六。ハ。怒。又。衆。く。突。倒。
因。り。と。虚。ふ。跳。り。入。る。斧。あ。り。揚。て。下。ど。打。く。れ。く。仏。の。脊。よ。り。大。た。う。と。モ。鞠。ふ。き
あ。れ。蜂。房。磯。と。落。る。と。か。が。て。数。百。の。蜂。の。子。群。飛。て。駄。の。う。ふ。散。か。と。び。人。と。これ。よ
か。そ。と。惑。ひ。と。ゆ。ら。涙。ひ。ん。逃。出。せ。残。豊。六。急。又。呼。び。と。も。蓬。死。人の。と。病。を。よ
仏。と。豊。六。日。暮。と。擲。り。財。を。惜。と。せ。だ。そ。の。本。體。を。蜂。と。一。又。ど。い。く。か。そ。と。そ
手。が。く。と。鳴。つ。る。残。佛。が。経。残。通。す。と。り。ひ。ら。せ。ん。へ。残。を。握。る。菴。主。の。尼。が。假。を。便。と。れ
名。け。く。賣。僧。と。ひ。更。と。好。き。木。の。虛。を。厨。子。や。く。る。豫。と。よ。り。そ。ろ。底。意。あ。り。そ
う。も。お。ま。が。い。の。脊。の。う。よ。密。う。じ。金。ち。え。く。竊。又。蜂。残。被。引。一。候。こ。ま。と。亦
あ。う。べ。う。じ。夫。正。法。不。不。思。議。ほ。志。あ。れ。然。不。思。議。あり。と。く。寄。ふ。聚。合。へ。ば。ひ
か。く。も。迷。ひ。う。じ。や。と。声。高。せ。ふ。解。喻。せ。ば。衆。皆。え。ふ。呆。果。て。あ。が。ざ。奇。一。小。勝。残
鼓。現。大。贈。ゆ。れ。さ。る。あ。ま。実。浅。江。の。豊。六。ハ。一。器。量。あ。る。そ。の。こ。そ。と。入。へ。づ。が。眼。前。
と。の。衝。て。ふ。魂。消。と。ま。あ。ト。そ。れ。と。の。月。一。旬。あ。ま。ア。烟。も。久。さ。び。植。つけ。せ。ま。と。く。あ。や
蜂。み。賽。祇。へ。計。の。供。養。ふ。う。り。と。せ。で。惱。く。な。り。を。あ。く。り。と。と。罵。る。も。あり。笑。ふ。も
あ。ア。禍。子。外。き。け。彼。声。ふ。う。四。置。昌。と。散。動。け。り。ま。さ。こ。ー。の。菴。主。純。ム。ハ。五。十。餘。歲。の。老
尼。う。ま。い。豊。六。小。空。倒。さ。ま。く。輒。く。起。ゆ。乃。が。り。一。が。鄙。語。か。い。泣。面。と。蜂。み。囂。れ。と

苦痛ス協モ。傍シテうまく阿容。こと法衣の袖を垂シテけく。並と天寶戒押てぞり。
さもこそあらか。と豊六へはとり近く立よりく。斧の柄をりて推動。菴主も吾
脩と要へえども。飽やうべく罵りしが實仏といひのれ。和主が近く積と約る欺詐戒
宗とども。あらうが虛言せぬのが死後地獄へ墮さるゝ。方を接觸との
べづん除戒撃く。おま戒アよ。假ふも仏と拜き。木像又料ア。さて先エ
破却せざれども。斧の響音かのづき。倒まく。是足戒損ひ多ひね。どくあるまづ
るかうまく。且く凡夫又拜き。再て利益の乞ト。戒示。一々ア。す
じてうん。さふらうとや。つらみそや。うどく。既戒撃さる。りふく。と斧の柄と耳の
邊小衝。うらしく。數回。禮懲せども。うに。一言も。應せ。と。勢のぶく。小尻を上さ
る。龜のじく。小項戒縮。や。る体よ。め。腰。皆。吐と笑ひ。と。が。豊六もうち
笑ひ放しへ。た奴。よき。ども。法師も老婆。歎ひ。みせ。大人乞は。殊。ちうど
突立う。斧を揚て。肩ふく。うち。け。鐵工の。う。選。ふ。う。裏入文。は散動。を。く。ナ。と。戒
慶被戒賤。て。皆。豐六。後。又。跟を。菴を。ま。り。か。庵。あ。く。縫。彼。此。又。風雨。志。朝。又
市の果。う。と。え。結群集戒。う。と。り。け。丰。日。菴。の。稅。法。ハ。只。屁。の。喻。ふ。洩。是。だ
世の胡慮。う。り。ゆ。け。ま。かり。し。だ。よ。豊六。そ。の。日宿所。へ。立。ア。く。そ。で。や。く。女房
ま。そ。の。く。う。か。小。峴。崙。仏。の。緯。の。慈。純。仏。が。湯。件。を。お。ち。力。を。く。物。く。重。て。快。然。う。ら。笑。ひ。
人。ハ。只。寄。戒。ぬ。じ。り。の。ま。耳。戒。も。目。と。卑。と。之。風。戒。逐。ひ。輕。戒。捕。る。こ。と。う。と。責
と。と。あ。僧。へ。る。意。や。と。せ。り。正。ま。之。件。の。木。仏。が。經。戒。ト。ま。あ。と。と。り。あ。と。信。ぐ。く。お。り。い。う
じ。も。お。も。定。や。う。み。う。た。戒。そ。の。る。と。と。も。絶。く。咎。め。を。口。青。裏。戒。荒。る。と
る。戒。の。み。う。ち。歎。を。ふ。あ。せ。尼。法。師。が。そ。の。大。よ。入。の。慈。の。聽。び。と。罵。辱。一。面。僧
さ。ふ。と。り。く。彼。れ。を。窓。へ。被。峴。崙。仏。が。經。戒。福。む。告。ま。究。め。て。底。と。定。う。か。せ。え
が。ま。す。う。ど。この。春。背。門。又。房。と。營。と。蜂。の。子。ゆ。く。他。す。す。が。ア。そ。と。く。彼

此の賛を配せらる。よ達がど虚のこゑの紙窓より。親峰の赴きも法楚と見
らるまつた。かくくや。被此人が聚合したて。彼巢木が毀て。善元法師が面
は飛馳利こど。熱腸も冷つぬも喧嘩の側杖から足を損ひり。ひさす
久の者への交代より。尼りうなむ廢懶と輝かへを痛しけり。といひあ
えうち美へ葉みへ真顔也。物体うれしの宣す。千劍振神こも祿宜のヨリ
がくゆする佛ゆ志うぞ。ほらむる。求め、傷ひあわざ。さけ過失の懺悔。そ
勸解をへ罪ひととく。口以純化比丘尼へ。朝夷の眼代。船塲ゆふ
由縁のへも。志うぬ。菴を開く。聖殘雪も。憤残散。うづふ仙くこと。又それ
船の巣や。あくしんとせば。後事をうづく。こそを不妙哉。おうひぬ。とひへ。豊六ハ珍
矣。ひそえさん。おより。されど。されり。眼代船塲国内ゆゑ。男児。不うる。二入
夫を知く。あくべく。お義演。そぶ眼前妻の女が。船塲。前かづけの船塲
と。小劇騒だ。歎の残を贈り。ちのびく。小勸解。一。件の夫へ。財ふ折。密
あり。小頃太小珍。二則。凡え。その乳母ハ。純仏うり。そひ比眼代船塲ゆふ。内
室。おあり。あくべく。宿寢寂。うまけん。子どもの乳母。媾合。一。乳母が
夫を。あくべく。お義演。そぶ眼前妻の女が。船塲。前かづけの船塲
と。小劇騒だ。歎の残を贈り。ちのびく。小勸解。一。件の夫へ。財ふ折。密
夫され。お義房が主ゆ。あくべく。おほ。かくく和睦。いつまく。主ゆ。這奴へ。この事
尼ふうきよ。某へ他郷へ。移つまく。後ゆ。とく。おだて。まう。かくく。口音ゆゆ。
と。おひの隕。うみ。放り。理ゆ。勝ど。勢利。と。貢。と。上。縦。縫。と。食。ゆ。せ。形。の。じ。斧。を
約束。う。と。被乳母。青道。す。ある。み。う。縫。と。食。ゆ。せ。形。の。じ。斧。を
縫。ひ。居。く。食。ゆ。船塲。ゆ。の。賄。ひ。ふ。と。う。だ。う。と。彼。夫。一。子。へ。上。縦。と。又。其
妻。ひ。母。を。便。り。と。あ。よ。け。と。船塲。ゆ。と。う。び。と。り。と。切。平。と。名。け。く。繫。と。使。へ。り。今
ぞ。被。処。の。出。張。へ。う。り。と。う。う。が。丁。年。の。比。み。と。齡。五。十。ふ。及。ぐ。人。も。か。う。べ。と
あ。う。う。う。か。う。べ。と。眼。代。又。由。縁。ある。尼。う。う。が。と。入。へ。よ。れ。ね。ま。ち。あ。廢。

威權ありとあ行承外に御越度（よど）か崇す。又レ倉庫（くらこ）をひのるを元。據め違（たが）と貢税爾（じる）也。伊を賣（う）て俗成範（はん）計るを尼法師（みはし）兵（ひょう）を至てや。と道理又釋教（しやくきょう）或禪（ぜん）もて酸鼻（さんび）。そへとこうらう供（うふ）の不（ふ）可（こ）と理（り）もへ勝（かつ）ども威權（ゐせん）も負（ふ）る。然今宣（せん）也。そへとみけうう者（もの）のひ後（ご）。とりうせゆあへど声（こゑ）をあめに。そ豆兵（とうへい）者（もの）おおわらへ。えふ体（からだ）。その夜通宵（よまがさう）。立ゆス。却（さく）り惱（なま）い。よ荒野（あらの）へ遣せし子（こ）のうへさへ。若ひぞくと夏秋日（ひ）と長（なが）ーとせらば。今朝出（で）。良へり。すがへり。すがへり。と。故敵（むき）のふく。並（なが）相（あわせ）。用（もち）。姫百合（ひめゆり）の花（はな）も日暮（ひぐれ）よ頃（ごろ）。下晡（しゆふ）よみふけ。浩然（こうぜん）。一個の武士奴隸（ぶしゆり）。唐櫻（とうざくら）。擔せし。呼門（よかど）をせらど。かく。女（め）と。かく。かく。かく。かく。葉（は）を。敬萬（けいがん）。見え。え。毫然笑（めうぜん）。は。馴（なま）く。猶（よ）。羣薛平（ぐんせっぺい）。推處（すくべ）。汝（な）。豊六（よしろく）。女房（めいぼう）。口不眼代（くふわんたい）。難堪（なんかん）。扇（おうぎ）。敲く席（ののき）。月。よ。かく。かく。かく。かく。の使者（ししゃ）。み。と。憚（のぞ）。のめ。かへ。わく。と。密々（みつみつ）。と。の。み。教（きょう）。べ。を。と。だ。え。さ。て。の。ま。の。豊六（よしろく）。千日菴（せんじやん）。木佛（もくぶつ）。毀（ひ）。裏（うら）の迷（めい）。覺せ。ま。既。よ。かく。と。み。と。が。眼代（わんたい）。委細（いさい）。付。ら。く。賞感（しょうかん）。を。流。く。と。彼。純。ム。ハ。む。く。よ。リ。耶。由。緒。あ。の。の。う。と。お。お。が。や。か。と。緯。私。よ。か。あ。り。し。か。く。よ。か。れ。幸。な。と。あ。う。と。と。豊。六。が。生。來。を。荒。さ。と。あ。こ。と。眺。ひ。の。ま。せ。か。れ。只。尼。と。見。貧。と。や。い。か。到。ん。夫。公。道。や。へ。親。疎。ほ。よ。り。と。そ。の。日。の。賽。賭。を。没。收。あ。く。み。豊。六。が。と。く。と。べ。よ。と。お。や。へ。ど。由。如。此。こ。と。發。訴。せ。一。と。か。う。う。が。あ。よ。

文注所より遠とばに汝竊々彼廻り赴民の父母と居てが意成あじて件の
従を豊とよとせよか。と仰ふよとく。みちつそくあるえあうのとこぶ
選りうがてのみあら残着なく告よと叮嚀又現示して唐櫃の蓋推用クセ。
青錢十貫文堆多く積む程又葉白玉小果もひく。さうなくじ豆が承受
き。納ど。その方ざあたゆる尼清一寺と考へて由菴と闇せて。おん外口あらんと安き
心せましよ。おひうらうを賜りて有えどまく辱きど愛てト免ゆ。此免
せ。おひうらをひい難き。皆門の槐の日暮ゆ腐る。良入へ還る小程ゆ。是
具くおもひ候。とりが頭代うち掉く否ひべうたす。もあらむ良への留
ま。おひうらをひい難き。皆門の槐の日暮ゆ腐る。良入へ還る小程ゆ。
眼代もねどびくとおまのじくらめ。五口があまき。と立あが袖をさとどがふ引とお
ひく。おひうらをひ湯ゆ進ひせど。よう。おまゆせ。と縁端に小膝が突く
目送り。萍平の遠づけ。後者をねく走去ぬかく。その日も入祖小山寺下。鐘
音れど。ある林へかへ。比農六ハ脊ふ餘は祕藏負てかく。あら持つて。と
葉白玉諸色紙掛く荷代釋せ。盤又波くさく。水代跨く農六。手推
械。おも拭りく肩の塵埃とうち拂ひ草鞋と。足捨兩足を。洗く。躰く。軽遣
せ。地元の居たり。胡坐う積く。殘をそえりく。被ひ付を。と。研。バ葉白
うち笑ふ。おづちびきく。響ふ。眼代船堀ぬ。よ。平群萍平といひ使者
あひて。おん身ぐきの傳た。残表のと大きる。よ。あらく。菴の賽錢を。
悉石と。おまく。彼書來と荒き。損益賞ひ。よ。口状。如此。三。箇様。こと
おちあら。おまく。曹六。眉も。草。そ。と。へ。つ。かく。おまく。ヒ。維。訴。ヤ。さ。ど。の
公。おち。度。う。かく。死。仮。非。分。を。替。や。音。体。分。賞。美。せん。と。う。く。双。方。有。一
おんがじよ。や。さ。け。文注所へ召させ。對決。そのちふこの積を。おもべた。のを。あ。よ。千。日。菴。乃。

賽残を没収せん。公のス。その残を豊六へあり。密この使といふ。その名ふ稱
ひそいと。博ある。玉手が。謙倉。て。まく。ロハ。一人。秋又殿。さ。う。バ。親疎。さ。若狭將士
思が。櫻を。禄ゆへ賜り。しん。船塚。ゆ。れ。名。仰せ。貪る。エ。ト。を。さしけ。ま。あ。し。ゆ
お。が。る。理。那残。正。く。黒の残を。あ。ぐ。ん。や。云。か。う。う。情由。あ。ま。な。ん。あ。が。
推辞。と。聽さ。ま。ご。が。あ。こ。く。つ。還。ま。ご。使。と。引。と。あ。む。ぐ。り。し。ひ。ふ。そ。の。さ。ゆ
あ。ら。う。あ。う。う。ま。は。う。経。が。良人の。か。ア。リ。本。あ。ま。ご。二。苗。カ。ク。ど。眼。代
の。ね。う。び。く。あ。ま。き。う。め。良人の。留。ち。正。居。女房。み。處。あ。セ。ア。サ。ぐ。く。豊六。よ。ひ。う
せ。ー。み。異。う。う。ど。と。ひ。う。け。く。う。立。う。休。ほ。う。か。又。出。う。く。今。え。後。悔。あ。ま。ご。
と。り。う。う。豊六。沈吟。じ。と。も。か。く。も。と。う。捕。と。そ。う。隨。ふ。れ。受。が。じ。け。と。か。く。と
日。へ。暮。う。翌。へ。早。毛。く。文。院。所。へ。り。と。毛。す。く。返。ま。え。一。夜。ど。の。ま。の。あ。が。う。
物。餓。鬼。の。糧。を。六。脾。虫。が。欲。あ。生。平。の。あ。う。で。熟。睡。く。り。盜。き。う。が。難。見。え。
戸。棚。の。消。残。固。う。せ。う。と。ひ。う。残。を。と。ア。消。や。夕。餐。う。う。く。わ。う。共。ふ。ヌ。や。夫。婦。
夜。と。ち。う。寝。う。ね。が。す。向。せ。い。坐。と。門。三。郎。が。か。る。日。を。僂。く。明。ま。を。あ。夏。を。夜。
う。う。う。短。う。そ。の。曉。う。目。睡。し。夫。婦。は。常。と。朝。寝。く。日。の。升。る。比。起。う。
光。る。豊。六。の。帶。引。結。び。く。慌。忙。た。門。の。戸。を。開。使。残。違。と。捕。め。大。勢。逃。わ。あ。
せ。ど。も。う。く。と。支。入。と。推。と。り。曲。ミ。十。日。菴。の。本。身。を。毀。菴。主。の。尼。を。寺。ト。と。締。の
務。き。ふ。賽。残。を。奪。去。と。大。盜。入。を。捕。來。つ。と。眼。代。の。金。か。づ。く。向。か。ず。索。求。
かれ。と。闇。く。声。え。葉。み。へ。聲。男。を。光。く。ま。り。生。づ。黒。兵。亦。よ。推。禁。ら。ま。く。よ。と。泣。
妻。を。う。う。豊。六。へ。騒。だ。う。乳。き。な。く。世。邊。だ。く。小。勝。大。禱。を。た。く。理。不。足。く。う。
某。ハ。半。日。菴。の。死。仏。を。罵。り。懲。せ。ー。と。か。わ。じ。ど。も。残。を。盜。る。か。ば。え。る。ー。と。ひ。う。せ。ゆ
あ。ー。底。答。を。揚。く。背。三。四。う。ち。平。あ。陳。ざ。亘。び。と。う。く。ゆ。う。さん。や。論。よ。り。證。据。舍。搜。
せ。ん。と。ひ。そ。う。中。小。早。雄。ち。あ。西。三。入。彼。此。と。揚。里。達。五。ど。物。も。ひ。戸。棚。と。預。を。こ。ー。

たあへいとお怪」と戸を開放せば、あぐりと巻き十貫の銭引出で、豊六が自先へ
撲地と投げ入る。これで、もはや盜もやとあまを笑へ、葉もひ遙よ泣声あら立く。
その様な箇様。如此このうなよもく眼代よもきりとひく、隙み被ひ窓く。
縁延々異口同音か歎か何の功ありといづれの日か文注所へ召すく賞錢をうる
る。あ。豊六へぞひづけみた。寛枉は證据の残地獄の沙汰もかひてより。謀をきけりと今
えよどび再び争ひ争ひ遂立てく生くゆ。良人のきく葉もが者と抜かくれば。
夥兵亦ふ突くさむて轉轍び携まろ賠活り。アリ返し草覆うくぬ郷乃康
ゆく蹟も跟く。唯雄離る。朝きのうくわ樹となむ處ひにめ、五々、哀れ。

初輯 第八 帰郷の野邊送玉
復讐記 大刀

體壇圖内が縣兵亦ハ豊六を拘捕て、歸て文註所へ牽りて奉る。公文所建トテ
諸國の守護の正職を公文もく。詰所とひ候あるのみなり。云々のす。浅報知く。呼の裡へ推をもくす。こみとひよ安房
國朝夷郡のうち大膳滿祿健田の郷も御厨五郎滿祿信俊。領所を信俊へ
この年來在廉倉うじく。郷の老黨體壇圖内一郡三郷を別當と。賊歎を收め
せうぶつこと。並もひりと。と。賞罰と主事威權領主ふ異うと。齡六十ふちじとひとも。慈母の乞援をうけ
まが人減らると奴のど。賂をもと給びと諂ひと。誦がもと。足利用ひと。利口ふ乗く。
とく。得失と辨。奸智と逞。利害と論。民の煩ひゆうと。穢ど。その性素。利
さうく。世才小長。う。癖者。う。と。領主ひよ。う。ふ。み。かすりのと。のと。ふ。う。と。
却後國內ハ尼ガ子をあ。切平本成後つても。その席。よ。う。と。金。り。う。と。の。金。頃
首せり。そろと。國内ハ業を。よ。せ。嘆。死。う。信。と。う。と。か。され。豊六。汝。一時。故。も
う。千日菴の靈佛。うち碑を文僧。弛はば打。擣して。百緒の殯と。盜。あ。その。ゆ。も

もや惡れり。尼又訴ましせうべ則攝捕せり。豫て詫責されりと怒へざるが
かくまで大膽無禮の所れんせ。速よ首伏せよ。首伏せども。と責向ひ豊平が
頭取檻待候でり。どもそく究め。而辯言。盜か論。彼木像破却せり。又
いわど。その故へ如些く。又彼後ハ箇様こと。こふ麥畑を荒らす。その工の
起立り。地仏がる体。平郡蘿平がるをえ。ひととくより城代あへど。奴甚口強。
徃還のひ。小麥畑を荒らし。城惣とせべ。うどくおもて訴さる地仏主外口ある。
甚しき僻處。又彼菴の牛馬が逢成続とも。うちだとも汝が管るとあるぬ。道
場騒鬧。老うる尼を打付。靈像が傷ふ。と惡虐じうの守屋と云ふ。又つう
夥兵後僕。平郡蘿平とゆきのう。已まへもうか。一郡の眼代うけ。召使
奴婢とくいくそをくそもあく。とくまくちうた里人。ホヌ多々面を織られざる
ゆのとそ入ゆるなり。汝が虚言いとく拙い。明く地。小盜。よし城。りく苦痛を
かく。骨相書とくく索め。おほびとりのひ。又千日菴の尼がる。某求め
彼供像式破却せ。うべに爲体。ひそ日。系緒せしものどもが正。久登入。又。彼
ひべ。骨相書とくく索め。おほびとりのひ。又千日菴の尼がる。某求め
此へを召聚合。地仏と某と對決せさせまへ。口願。いたばこのこと。とくまも果を
船堀の業を。礎とうち鳴。じりのとくとく。遇え汝が福を。やへ受ふ。罪疑へ。久
ゆう。久登入。も召聚合。地仏を。も召トせん。既。又盜。待。すが。かく。久登入。彼
う。一。あ。ゆ。そ。他。を。索。ん。や。り。一。三百。う。ま。と。べ。の。と。実。と。吐。ベ。く。と。と。鞭。と
敦園。バ。迎。佛。寺。子。ま。ま。け。若。堂。切。平。ナ。ア。ろ。る。そ。禄。を。ま。内。り。と。花。と。豆。と。と
推伏。安。の。名。威。復。と。そ。と。久。福。と。答。小。ち。う。威。の。上。ア。う。け。声。高。く。シ。ら。が。憐。む
ベ。豊。六。ア。皮。破。毛。肉。剥。く。脊。筋。筋。松。よ。か。房。よ。彷。拂。う。答。数。百。小。

及へあとなみ昏浴しご夥兵ホニ立候引起しと面ふ水或沃だくひ焉或飲せらど
せ一候且一そ息牛されどもる母入ニちへる死たむ。船堀國内ヘヨシテコトハ
うち笑ひ這奴陽滅をあらざや。又責スレハ度々食事ど日ハ願たぬけ。已
えん嚴く獄舎小移せげし。とハ又夥兵ホ立テ至て片息なり。豊六を主と
衣す。引見。獄屋のき入ゆく去ぬ。さは行又葉みへ歎たひ。生と枉屈乃
神を服。佛又即ち。ハア。良人と故人。トヤハ。のり。親族主。されば庄
司隈の二三。相潭り。村長或因み。船堀が宿。小赴。一通。頗大。恩免と
乞ふ。けまつ。被切平ホコト。を阻て。國より肉入。至。モ。處。うち歎。ハ罪。證。に
えが。ま。染。何。こ。う。る。る。豊六が首伏の科。又。妻。也。子。也。同犯。同罪。ト。便。起。よ。
殺。一。と。考。も。推。主。と。大。膽。不。再。て。あ。ら。ハ。傳。ル。先。期。せ。と。罵。う。る。
と。考。縛成。サ。あ。ダ。ガ。三。ハ。葉。主。残。窮。又。縛。め。と。復。い。あ。ラ。キ。時。運。亥。天。小。ま。じ
て。うち歎。と。ぞ。日。を。送。り。ぬ。か。る。バ。ト。六。千。早。振。神。う。ふ。主。が。知。り。と。な。三。阿
三。郎。の。ゆ。る。日。小。大。膳。と。啓。行。と。上。總。下。總。を。過。り。と。急。ぬ。旅。も。舊。里。の。親。を。參
り。を。あ。く。三。四。日。宿。小。大。膳。と。啓。行。と。上。總。下。總。を。過。り。と。急。ぬ。旅。も。舊。里。の。親。を。參
母。の。あ。天。父。の。心。不。祈。念。垂。安。時。や。解。ら。き。そ。の。曉。と。よ。お。づ。だ。日。睡。と。夢。の。中。か。
板。と。見。あ。人。又。あ。ひ。り。と。荒。と。後。何。と。あ。く。抱。うち。騒。を。や。安。と。無。と。佛。前。に
合。掌。と。兩。親。安。泰。息。災。延。命。造。惡。消。滅。二。世。安。樂。大。慈。大。悲。と。念。づ。と。遂。下。伏。
向。と。赴。く。宿。と。通。時。と。り。附。さ。う。休。ひ。も。せ。じ。走。り。と。天。底。が。ま。光。翅。う。ナ。見。だ。
小。鹿。の。角。の。束。ろ。角。と。か。ア。と。名。べ。う。も。あ。と。七。日。の。旅。だ。と。こ。う。家。ち。く。才。未。る。が。
里。の。楓。と。山。の。鳥。の。音。が。と。声。を。常。な。と。斜。み。た。ま。と。一。日。れ。教。も。か。ミ。と。二。
ア。不。も。ほ。主。と。か。う。う。の。ま。う。と。が。ロ。ハ。一。歩。や。と。く。か。く。と。二。親。と。え。を。や。と。そ。
ま。と。く。進。む。前。面。と。あ。ア。げ。た。と。桶。を。棺。や。と。解。洗。衣。うち。被。つ。昇。と。

あまえあゆのあら淺草の観音
堂より通夜さし時の夢又似て云が誰と
あらねど胸辺までへ邊づまふ彼方の事。
すよ門三郎。やうり一宿。といひ正一く一三
ろう。棺を専らへ合壁の甲にされ。こえ
いふ。とちひきつゝ立在ば棺を其外へ
昇とぐる。衆皆声を低下す。喧阿三郎
歌幸は。客へむるくみす。これ
ゆれ縁故因縁。あした路傍でひがひ。
和郎へ。母の。とく。とアリ。とく。葬と
おとと。かくら。あくせて送墓の供と
ゆれ。故因縁。あした路傍でひがひ。
棺小後の阿三郎。ひそく夜あそび。これも
亦夢うとぞや。夢みるが。覚よ浮世の
泡沫。尋常人の命ハ朝の露と袖ひじら
野遣送り。こう旅衣服。うく。か入へ冥土
の首途。く。けくと還ると逢坂の國。う
なく。小どもて。禁あくね。涙。素。ト。う
田舎の。う。か。あ。バ。田園の。隣。墓所。う
と。壊。う。先。没。死。埋葬。て。阿三郎。小田向
させ。我。悼。と。或。バ。尉。や。か。く。宿野。う。ま



ひ。阿三郎へ入るを勞ひ。わう共下。まくとこと。あ。絆く。再び其れ。伏波。
 潜伏と泣くをも。かくま。程。一三。途より。もと。立す。ア。阿三郎が脅。敵。
 哀。かへ。と。ま。と。ど。も。竊。不告。づ。死。あ。且。彼。かへ。と。替。立。鹿流。
 屋の薦。小。伴。ひ。豊六。が。きえ。の。越。峴。輪。仏。の。ア。純。仏。ぐ。眼。代。の。使。者。萍。平。が。襄。
 の。錢。を。齊。来。と。ふ。よ。ト。ア。豊六。ハ。禁。獄。せ。と。ま。く。縛。さ。み。及。べ。う。残。審。下。ふ。
 お。ま。ア。ふ。お。ま。ア。が。だ。告。知。せ。彼。純。仏。ハ。眼。代。又。由。禄。あ。う。の。う。見。計。く。ま。と。き。ア。み。故。今。
 す。う。脱。る。小。途。一。る。ま。ア。豊六。ハ。毎。日。の。呵。責。不。堪。さ。り。けん。昨。夕。暴。風。
 と。あ。う。死。灰。又。死。骨。死。骸。死。形。の。ひ。く。葬。り。め。と。真。成。小。耳。語。ア。阿。
 三。郎。ハ。坐。く。每。小。達。恨。の。涙。禁。さ。く。涙。う。も。あ。一。三。中。異。見。う。ち。四。度。入。い。す。
 痛。す。和。郎。う。母。う。便。り。小。ち。り。子。ハ。と。と。夫。が。拘。捕。ら。一。日。口。ハ。泣。
 う。し。泣。明。せ。が。ま。う。や。か。と。て。る。疲。積。む。え。又。聲。り。く。考。ハ。又。細。ま。ね。ま。う。夫。ハ。
 じ。ま。く。下。下。し。と。坐。そ。一。時。ハ。昏。絶。て。四。鄰。騒。り。ま。う。ど。也。雄。こ。」紀。老。至。ハ。
 も。ひ。え。て。と。ア。乱。さ。と。と。ま。く。和。郎。が。立。く。腰。俟。ハ。と。ま。う。上。親。も。と。り。子。も。と。ま。
 あ。く。親。類。ア。精。進。固。め。志。ゆ。せ。ひ。口。脩。ハ。鮒。と。煮。う。鍋。通。家。の。ち。と。連。れ。ハ。
 よ。ま。外。の。史。や。う。し。ど。も。か。も。あ。て。進。う。せ。ん。と。恩。と。ど。白。地。よ。ひ。う。紀。難。矣。
 ある。彼。腹。う。ろ。眼。代。殿。傷。痛。く。尼。と。目。見。負。て。豊六。を。責。殺。と。も。飽。で。や。和。郎。が。
 畏。り。う。が。母。か。う。と。も。小。搦。捕。そ。ま。を。科。威。負。せ。ん。と。く。用。意。せ。ま。と。す。威。五。脩。下。
 密。語。あ。う。け。り。も。う。が。親。子。虚。こ。と。豪。わ。き。を。も。が。い。と。危。し。の。う。が。我。も。や。
 あ。う。せ。ん。と。も。侶。を。か。う。て。か。り。來。く。ら。と。我。落。費。不。母。の。共。し。一。奔。主。と。
 あ。う。真。う。も。て。百。夜。や。ま。の。粒。銀。球。み。拭。又。包。胸。ま。懷。す。と。う。先。へ。遠。く。と。
 せ。い。が。阿。三。郎。ハ。感。謝。又。甚。ぞ。め。る。好。意。ハ。け。の。ミ。な。く。母。が。長。死。病。苦。す。實。
 あ。う。せ。い。が。う。ま。か。う。の。厄。難。す。く。この。鄉。又。ま。う。と。ど。な。う。が。何。れ。時。ゆ。

返すを是へ決めて受かへ。と推辞へ三點残うち掉否返まつてお情面も空。
和郎との手拭を認かりやと向きてうそひを公つた。現と見入のぬる地に失ふる所
よ、他よりといふべ一三うち微笑。さもあくまえん。この手拭は和郎が夾衣とむど
色ゆく。吾悔ゆ空うる恐りひよ。あくまゆる夜樋の口ゆる大石滾て谷へ入る。
その跡は二化湯く。ゆき。ちがひ又和郎がみ体骨逞しく。身長高し。らくらあがれ
とまがう。件の石を浴ゆ奉り。神所為すく。ひづる。田園の愁と掃ふあくま。
平く和郎が孝心と愛させたる鬼神。うごきて員財と償せぬ。拭と其刃又
がと。送て。そきと吾脩小曉じゆ。神謀はあらん。と思ひよけまど入る告尾。
の手拭を差めをたぬ。彼石既よう。みゆき。ひそり年々。その利はあら。余貸
き物を返さざと。毫毛たゞ。損とく。心と。推辞とく。と。諧喻と。その言
當ふ。あらざれど。也陰徳寔は陽報あり。阿三郎へ今まづ。口るせ。ト。残りのを
起引の准備せよ。それも今宵へ。ゆき。と。努へ。ゆる。ゆき。と。耳語。バ。ころる果て。
立正されゆく。附と。疊送。を。まく。ア。ス。と。バ。夢の青穂。よ。背影。ふ。も。や。蕉。古.
内里と。まく。入り。只今。ゆり。ひ。といふ。声。ゆて母葬。し。る。障子。引。用。まく。出。門。三
郎。欲。ゆ。ひ。と。三郎。又。折。よ。ツ。ア。リ。あ。の。せ。く。棺。と。送。ま。ゆ。ひ。る。四鄰の喪ふ
る。や。や。の。ち。お。ハ。ス。祭。み。の。終。焉。朽。木。を。見。給。助。あ。い。化。ス。ま。る。門戸。引。因。て。こ。あ。へ。
といふへ正しく哀傷。よ。ゆ。乱。一。声。氣。き。る。よ。う。び。ゆ。よ。か。ざ。り。う。阿。三。郎。
且。羞。く。恭。く。手。を。膝。置。た。る。の。旅宿。お。祭。み。の。社。死。縛。の。始。末。へ。繩。む。を。居。

一三門節（つらぎ）を告ぐ。遂恨（おこ）へましまよ尽（つく）。悲歎（ひかん）陽（よう）を歎（たん）と。而今文（ふみ）せんべる。此度の大厄難（ごくなん）にてよでゆく解（わか）はあらざ。二うぬがうに難堪（にぎやう）。あらわし出（だ）りて母（おや）ねりう共吾脩（おもき）を摶捕（さわら）んと。ときく還（もど）る城俟（じゆう）との事。もやまと縄（なわ）をくみ。彼入（かれいり）が假（あ）りゆく。親子他鄉（ほかきょう）へまよと。路普（ろふ）ま東（とう）西（せい）。へう。ごぶ考（かう）へとぞれかくもあ。二親（にしん）のうぐら冤枉（むづのう）。係りあひ死後（しがとう）までゆ。うとうのえの怨（おの）。三十六計（さんじゅうち）外（ほか）る紙（紙）よりと。この暁（あけ）母（おや）を貰（うけ）ひて逐電（しゆでん）。と居（ゐ）よき外（ほか）は縄（なわ）なり。とく。誰（だれ）は志（おも）かと。ひそびて。根絶（ねんぜつ）とす。出（だ）く見せう。菜（なめら）の頬（ほほ）と嘆賞（たんしょう）。覗（く）彼入（かれいり）の親子（おやこ）がをやか。守卒（しゆそく）。うそ。产沙欲（うぶつよく）大（おほ）き。なほぬ利益（りよく）。吾脩（おもき）も又ゆりき。件（くだん）のみ残（のこ）め、且（また）。竊（く）ふおんオを漏（もろ）さん。此度の没處（ぼくしょ）ふ被托（ひたく）く。物漏（ものもろ）さかの、沽却（こくしやく）。些乃路（せのじゆ）。何をかう。汝（なま）をまう。素（す）をあへり。と立あくと。或禁（かげん）。緒（はじ）の本末（ほんばく）。不知（しらず）。哀傷（あいじょう）。心乱（あわせ）。あらぬ。乍（さ）と諂語（ちんご）。と名召（めしめ）。改めく。温（ぬる）めやス。古うがと見て。伏呪（ふのめ）せ素（す）。うら翁（うらおき）。二親（にしん）へ豊六（ほうろく）。よしとふね。もん筆（もんし）。僅（すこ）み三の比。二の大體（だたい）へ俱（とも）り。產育（さんいく）の子と。と養（く）ひ。浦（うら）を情由（じゆう）ある。あく。實（じつ）ハ清和源氏の嫡流。旭將軍伊豫守。義仲朝臣の嫡胤。もん母君（おやこく）ハ中原兼遠（さへとおと）の息である。納給（のうけい）。御寄（ごよせ）。小す。すむ。志。あは。もん父君（おやこく）。治義二年（じぎ）の秋。太曾路（おとせじゆ）を出（だ）く北四。美兵（みへい）を起（おこ）す。おひ。おひ。と。を。おひ。取（と）。おひ。乗（の）。平家。西海（せいかい）へ追（おい）す。帝都。守護。某。軍功莫大。あり。

あらぶ朝恩特ニ浅く。是より早晚山とてろ儀アリ。かん行状より。まよひ遂朝
敵とて。主従七騎又船より。鞆絵侍。舟もそがう。モテ越路を渡。船入
とく。湖水の畔へうちゆる。あん大ねへさび矢。内兜を射さむ。最期へあら豆
栗津野の残の雪と消す。実は元暦のもの。年の正月廿日付。あらの比
ち。あは母君の胎内ふましく。素より。無勇へ丈夫。かく優まし。鞆絵の
君。この日真先又たゞみや。内田三郎季吉。みよと敵將鞍部。かくまだ遠の勢ひ
空。と。和田小太郎義盛。や。小生拘ら。き。ひ。け。ま。さて。簾倉へ率。ま。あ。
失。く。る。べ。そ。の。彼。そ。の。祖。よ。義。盛。ぬ。一。と。惜。み。簾。倉。殿。小。毛。す。し。妻。う。迎
と。ア。キ。情。縁。恩。義。小。鮮。さ。と。く。そ。の。意。ユ。隨。ひ。り。ひ。く。ど。も。臥。房。と。あ。ふ
ま。の。方。よ。義。盛。ぬ。一。も。彼。君。の。心。操。よ。感。嘆。く。そ。の。名。む。す。の。妹。脊。川。委。ぬ。月
日。を。そ。も。く。ち。男。發。生。志。も。と。も。且。く。被。あ。せ。だ。そ。の。年。の。冬。云。云。と。入。み。告。て
阿。三。丸。と。名。け。ま。之。血。を。正。け。一。子。う。と。も。寵。愛。あ。の。夫。と。偏。は。母。公。の。勇。力。を。義。申
産。く。は。ま。じ。が。世。廢。る。楫。の。や。ま。と。う。移。が。夫。と。竊。と。交。合。く。件。の。小。嵩。又。だ。櫻。瓣。の
ち。み。入。み。取。ら。ま。と。え。ま。乳。房。を。售。く。謙。倉。ふ。旅。宿。ま。と。ゆ。ま。と。ま。な。く。
ち。ん。角。が。乳。母。よ。ま。ま。と。り。か。く。あ。る。あ。は。櫻。瓣。よ。ま。脾。疳。よ。う。い。病。よ。く。蛭
児。の。神。み。あ。る。私。ど。も。三。才。凡。た。の。ま。で。足。く。と。手。と。や。う。ま。直。嘎。ゆ。夜。む。日。を
こ。う。で。む。う。う。と。あ。く。が。義。盛。ぬ。一。鬱。惱。ち。あ。く。母。山。前。ゆ。ろ。共。暇。と。ま。り。ア。采。地。和
田。の。岬。を。あ。女。僧。院。へ。と。く。遣。一。法。の。首。途。の。餌。別。よ。簾。倉。殿。よ。う。恩。賜。ア。戒
刀。ミ。田。滿。仲。の。遠。物。る。恨。利。迦。羅。丸。を。取。じ。あ。し。る。宣。よ。う。切。う。れ。ど。も。充
母。男。ハ。懷。う。ひ。く。名。將。勇。婦。の。子。ざ。ま。の。戒。法。師。み。せ。ん。う。と。朽。ま。一。世。み。な。ら。

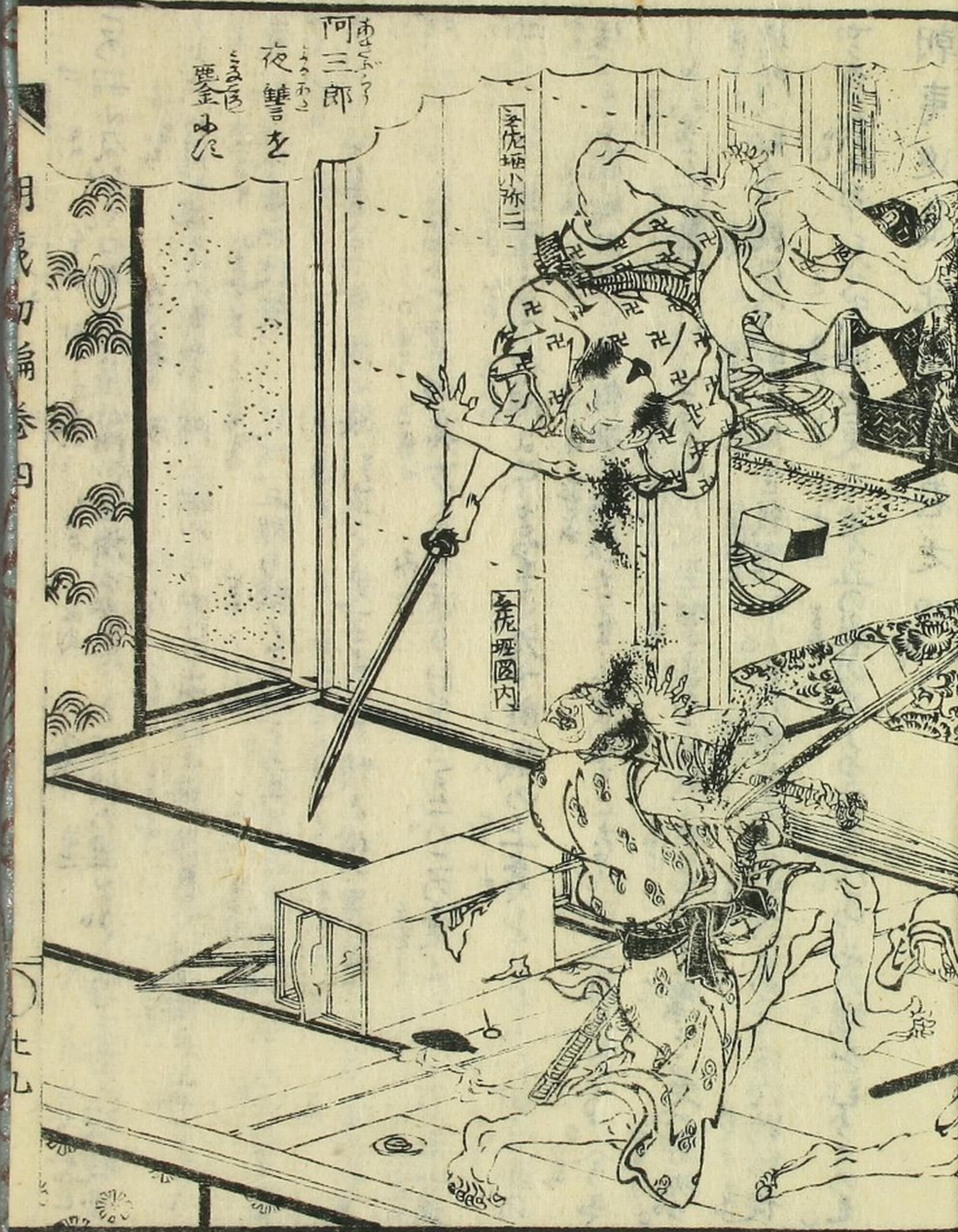
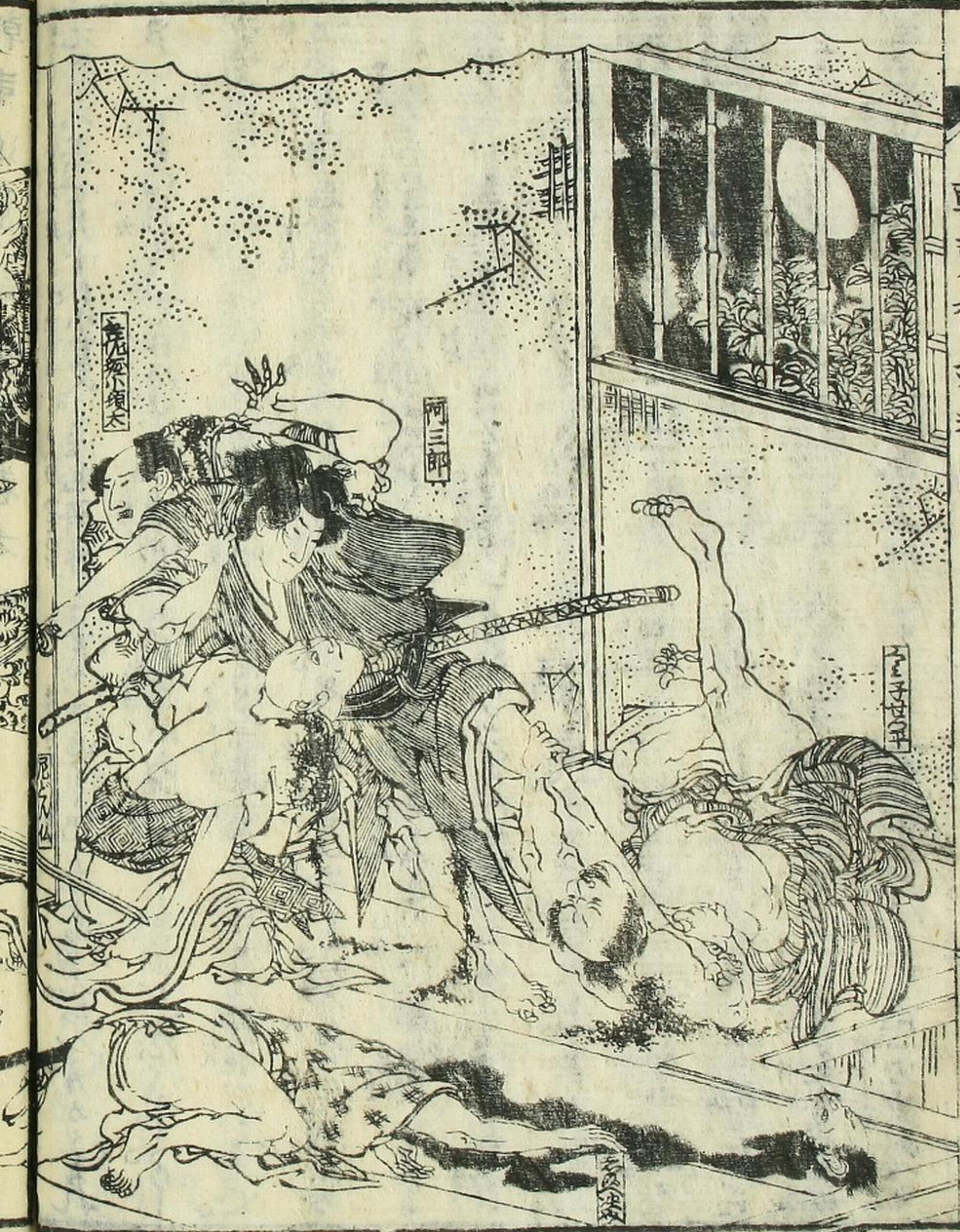
お。死のうが母のうたゆと公つても彼戒刀を抜いて孺子と刺しとておれ。
又かがやく推禁りぬ。泣く練在ればもぐれん放ちゆく。志をがる
子と汝よせん。舊里へねて還り。夫婦の中の子ともよび人ともよび此
教ひべく素姓を告よ。又教ひだらみよ。まことの親をも養ひの親をも絶
えどもばくだけゆふまとてヨリが夷か。墮ふ處へ護らんとあわせゆあへば
俱利迦羅の戒刀をひくもん腹へぐさとつた立ちゆけを當下遣去精細。
又戒刀へ養父の像見母を鮮血を塗るし又お眉へ實の又君木曾殿のむん
旗あり。とやせえあじとと生い。一毫のアミとゆ遠きとく血をあく。絹は書
さ。この二種へ汝又領ん。阿三たゞへとなり。勇士も。ばだのあくべひつと戒
刀へ取らせよ。まことく簾倉殿と父の仇とくをそぞり死ひ後して恩義
ある。美盛は。城連係せば忠孝の道缺ぬ。只くも。まごの彼人を。まの親と
おひよて。その方の威勇。世に志を。百々千々時を俟よ。や美盛は。が死を待
孺子の鮮血を吸ひ。おぞもひく。まよひく。生涯恥代雪。まよひく。おぞもひく
ど。ゆれどく。かへぐ。お達か。かへぐ。志戒激しく記念の二種膚か
附路費かせゆ。て賜。財布錢腰。結び。そよ。孺子を背負。暗里。まよひく。
うと。お折。縫。お竊。めひく。あとの歎。後方。紙門。我観。と推ひ。先
乳母。おそれ。口づ。非を。おり。可。惜。勇婦。自殺。させ。子と。まよひく。既に親
子の糸を結ぶ。美盛。瑠璃。すよ。おまか。工。役。せ。お。錢。腰。能。く。後。門。も。まよ
信。まよ。走。まよ。去。の曉。まよ。身。离。まよ。金。闇。お。封。まよ。お。津。波。お。折。濟。内。老
黨。要。越。獸。六。郎。といふ。の。糸。大。狗。も。黙。追。兵。戒。萬。も。も。引。復。さ。る。へ。り。し。ふ。

怪一がほへての時又昏死とてゆき。彦孺子へ猛スちうづつをく。近づくの所
搔神ミ碑ヨウモトうち歎一物のいんざるもとあじく罷り巣。あふなん。これ怪
力め戦標。黒六郎亦立足もろく。後続がそぞして逃去ぬ。からほう金罪ある。
野嶋が崎より便船。舊里へ但しよまみ。せ緯の越良入は生まく。不とう多三母
え。容體をくわか供あらす。とお富ひひと健か云月。うづくまくえ。
豊六。恩愛月々年々。やまきほの親がひもゐた土百姓のかう。とくへ度訓ゆ。
学の道も。ちく徳が丁そあき藝。むくかうせゆる餘力。ほやすく満禄の山寺へ
登。あるくせゆる書を入る。ふたたび。下山のちへ田ふ畑の稼。とくへ度訓ゆ。
本筆と同。あく。榜の刺衣。肌膚とあく。身を牛馬。又のき。ふ孝
行。ゆて。かくべ。終り。と哀。と。情由成端。さく告。と。折ア。そ。やと。僕。しゆ
うく。豊六。社屈。か命。を。失。と。餘の殃。かく。ふ。係。まて。一旦。王の緒。絶果。は
う。ど。下。の。と。城。誰。う。又。如。此。そ。か。方。か。告。傳。と。さん。あ。く。ち。方。を。連。係。せ。れ。く。
驚。か。言。か。驚。か。と。下。と。か。か。か。ひ。波。や。く。さ。と。そ。良。人。の。後。と。と。あ。い。あ。れ。愁。も。
形。あ。れ。世。の。哀。一。さ。と。懸。合。せ。ば。と。下。と。母。御。前。耕。絵。の。君。へ。ま。し。段
道。が。考。下。と。と。三。年。が。回。給。事。と。と。せ。よ。か。せ。よ。え。と。朝。み。く。あ。く。母。御。前。う
教。導。た。う。か。せ。と。と。思。惠。か。習。沿。ひ。松。ハ。操。か。竹。ハ。直。浪。速。の。浦。の。よ。ー。あ。ー。残
些。を。辨。た。る。と。引。く。ち。禰。一。奇。れ。ば。今。宵。よ。ま。く。も。才。力。と。こ。の。う。と。親。ふ。ま。く。
子。で。ま。く。よ。ま。く。も。才。力。と。こ。の。う。と。親。ふ。ま。く。
と。と。廉。倉。へ。起。た。く。養。入。君。小。名。告。と。と。身。を。立。ま。く。昇。竹。の。よ。か。群。が。二。の。す
の。も。こ。と。と。士。の。妻。う。と。が。潔。く。自。害。と。と。良。人。よ。追。う。だ。ね。く。ん。ふ。元。と。と。蓋。う。
生。と。と。益。う。死。除。壁。と。剪。捨。と。身。ひ。せ。ま。と。と。旅。ト。ア。客。ふ。命。の。限。週。四。と。

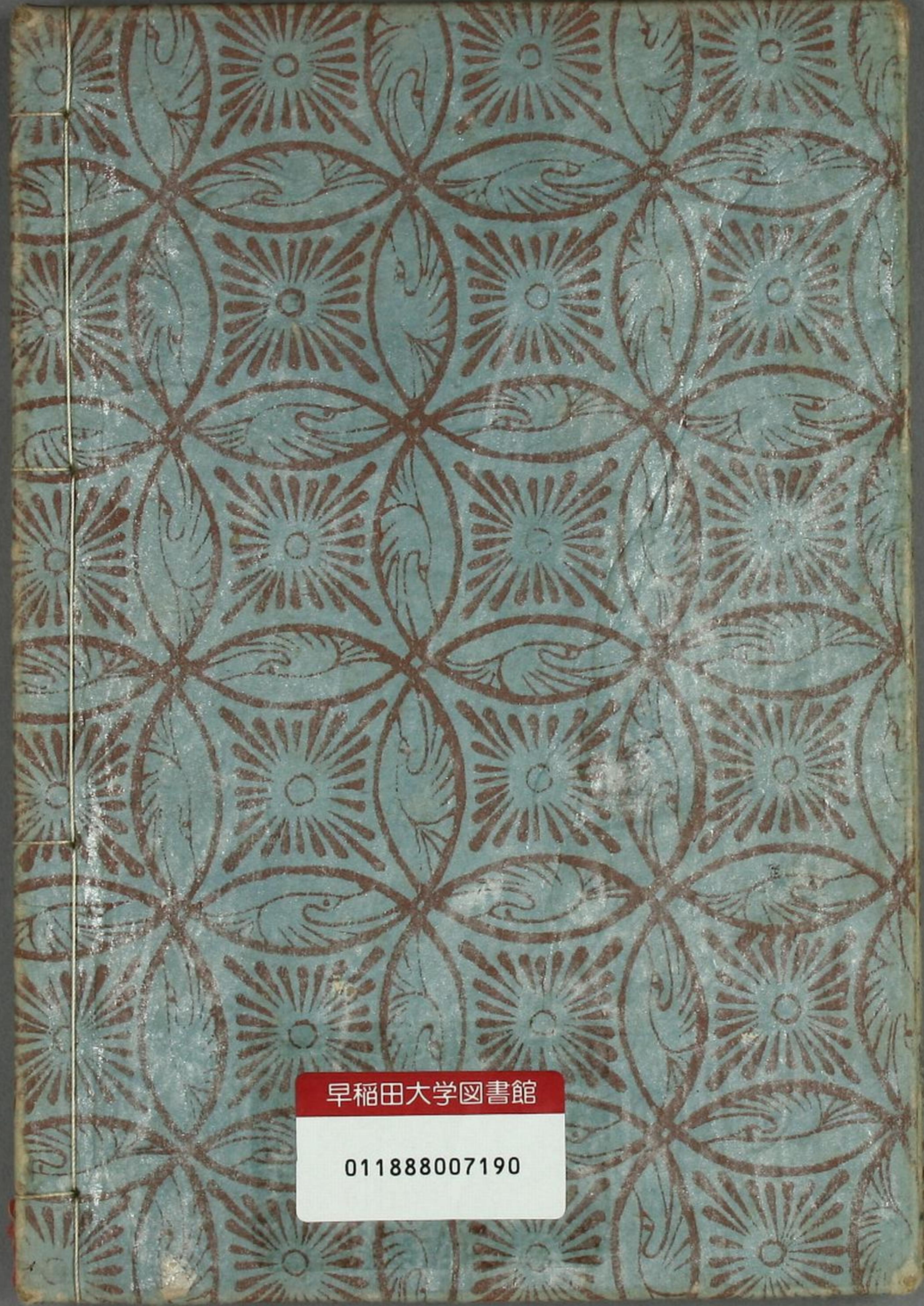
をもが復跡うりんと外うるぐるともせぬ。かく不今宵海陸小秋葉分ち候ま
てん言ふもあらまも詫すもむれ燈へことそと俱利迦羅の懷かみもめ引援く。
髻井と剪拂被旗帽みどりまをそく。恭へ門三郎がほとり邊へ國たまう。さう
辯へ雄こじげか。とえて袖の漏る雨の霽向へ絶てあらむけよ。あのとだをも阿
三郎も跋歎候り哉又そつとゆくとゆくとゆく。且く大息づ。儀葬と形骸改めく。
旗指刃と西のゆめ二つ三つもうち戴き城うるの古人の金言十室の邑みゆ
忠信あまも乳母夫婦ぐるゆりうさん。礼もも既スハ母の義あ。養心のみゆ母え
何でふ親子の義を捨べれ。さあゆても実の母の心操りを有がけき。但その自殺を
某が故うゆが方の罪車く。養親の恩義も高うる母の達命耳。小笛ア腸ふ潔て
悉くしてきよと。私の忍耐許世難驕り。而膳倉殿又我慢の弓をかへ弯ん。
あらゆると。身の厄難を脱しる。今阿容ことと膳倉へ余あへんやうに。名持の
相く勇力ありと定めり。ゆく母の病若死。とどんも又還りく後小崩坂
毛牛繁解よ。牛車の浪客も。もうひき推登も。みぐくら膳月も。三と頃えよ
けよ。入は邊。ひきく。因恩人一二が柵口の傍大石をとく。持て居も。所為え又
学問の道彌うけ。胸中五車の富。ひとと。儒仏の教和漢の史。古今の治
乱君臣の得失。相續ト。手もあらず。親ゆき。ゆくもつ々隠せ。へ師の
誠みよ。あらう。身の卑ひ。且愧く。他の姫婿をも。あく。在く。時ある。ふ附ふる。
家の艱か。養父。妻ひ。夫を置。とく。うるがよ及びく。右。しよく。おぶ素姓を乞ふ。
志戒。勇く。仇を報。難を避。身を立。名成も。揚彼世今生。五十七の見。苦。拔
恥を雪。孝。難よ。ほひ。ひ。の子と。よ。う。ほ。ひ。そ。や。實母の賜。と。忍。奉

と手を直す。腰下より刀尖まことにカタ。うち又一瞬せば熟視す。天晴露物
杖刃ふるはる鮮血。母の像を放といひあへて見あらむ。腰小帶入旗
指を推す。思弑りく親とせよ美み仗く友頃結べども残業らむ。ハ君も四海
みみ兄弟そ効ようじと血を擦く。余せらひ教訓へ目今母小面り也いづら
異うりと一言みて斧を尽と半句もと由嶺山の片玉。又くも貴し。毛
あん母の志料。生と恩意。一翁合せ。さとく斧小仗恩み答へ今齊地私船堀
等と鑿めく。怨ふ復ひ母を脅肩もく他郷へ走り。時をまよんと旗沼を擣え
とよも立あが。言語面き身の運動。自然とゆる勇士の本體現。武仲の義氣。亂勃
絵。子とく日光。た葉も慌忙たゞく袂ふ携引とぞ。より小物種。盜むだ人胤も
竊。と世経のへり。今を志す。此は肩かよひをきけり。能あり。奪ひぬ。隠して
まうべよあへぬ。と船堀ハ眼代。小禄うりとも家属うえう。數多ひ。所行をく。
いのむれふ。習得。大學。云藝。ちくう。世人も入めをや。つて。恩義の筋。よ。怨
千金の身を喪ひ。それの孝と。母を殺し。何ふせん。さく。徳不従ひ。被刃へ赴む。う。
假令今。養父の怨を復き。母を殺し。何ふせん。さく。徳不従ひ。被刃へ赴む。う。
知らず。とりべて。足利。掉。ひ。う。が。鮮と。の。恋と。死。あ。力が。進退不従ふ。う。う。
白子の浦。よ。使船。相模。近に。か。こ。か。も。か。と。か。越。と。上總。乃。ゆ。え
歎。な。む。乞食。と。ゆ。く。旅。ま。か。落費。ある。ま。く。報護。と。か。う。る。雜具。小代ぐ。
と。の。調。この根。と。こ。ぐ。が。あ。あ。せ。ざ。る。是。も。り。と。去。み。ひ。後。と。處。と。を。推。辭。よ。聽
が。ま。う。且。く。完。く。潜。や。小。被。包。小。卷。鎗。く。そ。う。修。母。の。脛。骨。貯。せ。物。と。す。送。し。ま
が。や。耶。も。の。う。志。成。歸。ん。と。され。ば。母。の。意。す。稱。移。が。せ。ん。き。ぐ。ほ。せ。る。く。上。總。の。櫛

おまへ送るやうせん。とあへど。そひて火急の旅をすゞ行されり。かうが。
 さくがむらの旅人あり。今東西又立て。何れの尽ぬとぞ。さへ。朝露の尼と
 名告め。再会の便をとこう。と。なへ。加以十餘年。養育の恩。産育の恩。ゆうの
 母を失ひ。後日か某が入るをかみ。かみく。時。反哺を受て。まわらば今
 の別れのむね。残業あつ日か。ひづえ。余み懷り。ひづえ。と他。つき。物体
 さく。假み。古主の名を祀。かへ。と。禪あつ。うども。おん身がゆり。身を。あせり。
 さく。やまと。推辞。かへ。と。ゆかへ。志。假。う。夜。の。ゆ。同。ゆ。出。往。往。剣
 さく。宿。の。から。迷。き。あ。だ。そ。名残。終。す。さく。小。暮。え。う。す。
 親。あ。さ。じ。よ。い。か。め。上。總。の。下。る。主。来。人。心。親。ひ。と。せ。假。を。ゆ。そ。の。名。を
 今。ふ。高。き。東。金。の。補。六。と。い。ふ。商。旅。と。ゆ。か。行。今。ハ。上。總。よ。ど。う。ど。と。そ。往
 へ。さ。定。く。か。お。せ。ね。バ。彷。ボ。の。と。や。う。ね。ど。獲。身。囊。小。納。す。の。肺。帶。死。年。月
 元。曆。元。年。七。月。十。日。小。暮。え。産。毛。肺。帶。と。答。が。み。逃。ぐ。記。く。あ。ぐ。ん。お。ん。身。が。く。手。れ
 き。ひ。一。月。や。く。日。り。と。く。り。漁。君。か。あ。き。京。か。あ。き。と。く。う。と。く。う。と。く。う。
 さ。あ。人。あ。い。あ。と。い。ひ。け。嘆。息。と。嘆。息。と。嘆。息。と。嘆。息。と。嘆。息。と。嘆。息。と。
 往。方。か。ゆ。さ。く。ぬ。女。見。ぐ。の。身。の。う。た。時。ハ。一。ト。レ。カ。ち。ひ。出。り。ひ。出。り。ひ。出。り。ひ。出。り。
 う。と。母。の。女。管。を。甲。夜。の。間。よ。と。と。浦。邊。熟。を。ま。と。ひ。ま。と。ひ。ま。と。ひ。ま。
 出。や。う。ぎ。せ。あ。と。へ。一。里。が。宿。み。よ。だ。送。し。て。あ。の。と。と。と。と。と。と。と。と。と。と。
 卫。紹。は。お。う。と。と。と。と。ひ。り。と。
 否。そ。と。と。途。ま。れ。の。か。み。と。一。曉。と。と。と。と。と。と。と。と。と。と。と。と。と。と。と。と。と。
 窮。や。け。ん。と。と。音。る。一。門。の。戸。と。引。兩。と。裡。面。入。る。わ。の。庄。司。畠。の。二。入。親。子。へ。と。
 く。と。え。う。と。
 ま。と。



この御み及びく。口あへる蓋母にひ吾情が案内へ便宜の里すむ送至普へ現親子
ひう共み慈てゆえへ却危し。阿三郎へ今宵の生船よ乗渡す後悔こうとく
を急げ。葉舟を扶掖へ門口へ阿三郎も裙も一折さう共が立せらればさうとく
告別言ゆ是まゆや舟間小舟引立く走り去入の情と母の恩海としうう猿のそよ。
阿三郎へいだゆやとて垂垂時其方を目送りけま。まほの葉舟を圓の靈山美
地を残す。論歴一果ひ信濃よどやかまく九十餘歳の上壽をとひら和田合戦の
後すも、勲絵の尼とも彼四みれひとまへてあつたす。阿二郎へ母のゆくゆき
ことゆせに。養父の仇。う尼眼代ホを想ひぞは立ちじと豫てやへ船堀が
宿所へむり潜び入り。夥の仇を殺殲せ。その圖へたゞか生じとりたうの物語長
ゆうゆう。うりを。ふら。よ。第五の巻のそどあふとん。さやへ端をもつくの。



早稻田大学図書館

011888007190